

「水が出しっぱなしだよ。」「すぐに捨てないでものをもっと大事に使いなさい。」「親の車を当てにしないで歩いて行きなさい。」私はよく親に注意される。そして「なんでもタダではないんだよ。」「税金の無駄遣いにもなるんだよ。」とも言われる。「こんな便利な時代がずっと続かないかもしれない。あなたの時代はもっと税の負担が増えるかもしれない。」ケチな親の脅し文句だと思っていたけれど、どうやらそうでもないらしい。

水は川から来て、汚れた水は海に流れておしまい。というほど単純なものではない。蛇口をひねってそのまま飲むことが出来る水にするためには相当な手間と労力がかかっている。排水だってそのまま海に流したらとんでもないことになってしまう。下水処理にも相当に手間がかかっている。我が家の一ヶ月にかかる上下水道代は決して安くはないけれど、本当はもっとかかるはずで税金が投入されているから押さえられているのだ。上水道施設や下水道施設、巨大な処理場の維持管理やそこで働く人々の給料を考えると水は決してタダではないのだ。

我が家のリビングの窓からゴミステーションが見える。大きなトラックがきて、三人の作業員がテキパキとゴミを積んでいく。この前、初めて有料ゴミ袋を買ってみた。十リットルの袋が十枚で二百円だった。一枚二十円。十リットルでも結構なゴミを入れることが出来る。正直安いと感じた。稚内市のゴミ処理施設は埋め立て式で、この処理施設の建設に何十億もかかっていると聞いた。予定では十年で一杯になってしまうが、ゴミの量を減らせば何年か延命できるそうだ。たった二十円の袋に一杯ゴミを入れてゴミステーションに出すだけで、トラックで運んで処理してくれるゴミ処理施設が有限なようにこのシステムも無限ではない気がした。

道路にはあまりゴミが落ちていない。夏は歩道の草刈り作業をしているところをよく見るし、冬は毎日のように除雪が入る。これが当たり前だと思っていた。我が家は商売を営んでいるので、敷地の除雪は業者に依頼していつでも綺麗だ。父に聞いたら年間何十万円も支払っていると聞いてびっくりした。アスファルト舗装にも大分費用がかかるらしい。道路にも相当の税金が投入されているのだと感じた。

私たちの便利な生活には必ず税金が投入されている。だから私たちは安い費用負担で利用することが出来ている。しかし将来持続可能かどうかはとても怪しい。来る少子高齢化人口減少、地球温暖化への対応など税の支出は避けられない。今の私に納税はまだ難しいが、税の無駄をなくすことは出来る。小さなことかもしれないが生活態度を改めたい。